

科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

(55)

価値再認識

新型コロナウイルスとの戦いの中で、プラスチックの価値が再認識されている。衛生上の懸念から使い捨て可能なプラスチック製品の需要が伸びていることである。プラスチックは軽量、安価、高機能といった特徴を持ち、人類に多大な社会的、経済的便益をもたらしてきた。今回の事態は図らずもその端を改めて認識する機会にもなっているようだ。

一方、プラスチックゴミ問題が国際社会の懸念事項の一つになっ



科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センター
フェロー／ユニットリーダー（環境・エネルギーユニット）
中村亮一

首都大学東京大学院博士後期課程修了、博士（理学）。環境・エネルギー分野を幅広に担当。最近では、「戦略プロポーザル・環境調和型プラスチック戦略」（2020年3月）を作成。

マイクロプラスチック 環境リスク評価を

合（EU）では、製品ある。

EU規制障壁に

この懸念もあると考えられる。枠組みの検討とそれに基づく実際の評価は今後10年間で大きく進展すると予想さ

れる。

こうした動きは社会

的、経済的に多方面で

推進が求められる。環

境リスク評価に基づく

研究も進む。

（国際環境毒性学会）とIECCA（国際化

工業協会協議会）が連携してMPの環境リス

トを評価するための基

本枠組みの議論を始め

てMPの環境リスク評

価研究は部分的・草の

根的で、より体系的・

戦略的に進める必要が

ある。

しかしながら、これらと比べてMPの環境リスク評価は今後10年間で大きく進展すると予想される。

このように産業界

が実際にどのような影

響をどの程度もたらし

た。このように産業界

として積極的に関与し

ていく必要があるが、

と学界が積極的に取り

組む背景には、科学的

影響を及ぼす可能性が

ある。従つて日本も国

として積極的に関与し

ていく必要があるが、

現在わが国では「プラ

スチック資源循環戦

略」の下、リサイクル

として積極的に関与し

ていく必要があるが、

環境リスクの解明は

新素材開発などにも有

用な知見をもたらすと期待でき、今後はこれ

らの研究開発の一體的

推進が求められる。環

境リスク評価に基づく

研究も進む。

（金曜日に掲載）

環境リスク評価は、環境リスクの解明は、新素材開発などにも有

用な知見をもたらすと

期待でき、今後はこれ

らの研究開発の一體的

推進が求められる。環

境リスク評価に基づく

研究も進む。

（金曜日に掲載）

一体的な研究開発の推進

社会科学、経済学

社会的・経済的
インパクト評価

工学、環境科学
廃棄物の適正な
管理・処理

素材開発

環境リスク評価

環境科学

材料科学

社会的・経済的
インパクト評価

環境リスク評価

環境科学

社会的・経済的
インパクト評価

環境リスク評価

環境科学

用な知見をもたらすと期待でき、今後はこれ

らの研究開発の一體的

推進が求められる。環

境リスク評価に基づく

研究も進む。

（金曜日に掲載）